

# 1歳6か月児 健診用

子どもの事故はちょっとした気配りで防げます。事故を防ぐためのポイントをまとめてみました。

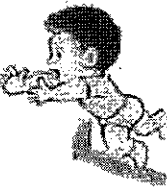
## 1. 子どもが遊んでいる周りに、つまずきやすいものや段差がないか注意をしましょう。

床に出してあるおもちゃや掃除機のコード、めくれあがったカーペットにつまずいたり、公園で石段につまずいて転んだり。子どもは足元を見ないで突進してくるので、ちょっとした段差にもつまずき転倒します。

ある程度高さのある段差は認識できませんが、ちょっとした段差は逆につまずきやすいので注意が必要です。

おもちゃは床に出しすぎないようにし、部屋の中は整理整頓しておきましょう。

つまずきそうな段差がないか確認して遊ばせましょう。



## 2. テーブルや椅子など高いところは立ち上がりからないようにさせましょう。

高いところに立ち上がるのを喜び、テーブルやこたつの上について落ちてしまったり、椅子や買い物カート、ベビーカーから立ち上がりかたで転落する事故が起こっています。

テーブルや椅子などには立ち上がりからないようにさせましょう。

ハイチェアやベビーカーに座らせたらず安全ベルトをしめ、乗り降りするときは大人が行うようにしましょう。



## 3. 階段を上り下りするときは、大人がいつも子どもの下側を歩くか、手をつなぎましょう。

階段を上り下りするときは、転んでも支えられるように子どもの下側を歩きます。最初は後ろ向きにハイハイをして降りるようにし、歩いて降りられるようになったら手を取ったり子どもの横か下側を歩きましょう。

また、大人の目が離れることがあっても安全なように階段の上下階には柵をつけ、閉め忘れのないようにしましょう。



## 4. 子どもの位置を確認してからドアは開けましょう。

開き戸を勢いよく開けたら反対側にいる子どもにぶつかったり、ドアが透明なガラスだと開まっているのかわからなくて突進してぶつかってしまうことがあります。シールを貼ったりぶつかっても飛び散らないようなフィルムを貼って防止します。

子どもの位置を確認してから、ドアは開閉しましょう。



## 5. 子どもが引き出しやドアを開け締めして遊ぶことがないようにしましょう。

家具の引き出しを開け締めして指をはさんだり、引き出しを出してよしきりダンスが倒れてはさまれたりします。機密性の高いサッシにはさむと、ひどい場合は指を骨折したり、切断してしまいます。

ドアクッションや引き戸ロック、サッシの溝には消しゴムやラップの芯などをはさんで防止しましょう。

サッシの鍵の部分は子どもの高さからいってもいたずらしたくなる所なので、知らないうちにベランダに一人で出られないように、簡単に開けられないようにロックをしておきましょう。



## 6. ペンやフォーク、歯ブラシなどをくわえて走り回らない。

口に物を入れたまま歩いたり、走り回っていると、壁にぶつかったり転んだときに口の中を切ってしまうたり、喉をついたりする危険があります。手に持っていれば転んだとき突き刺さってしまいます。

ペンやフォーク、歯ブラシなどをくわえて走り回らないようにしましょう。



## 7. 子どもの腕を強く引っ張らない。

オムツを交換した後、子どもを抱こそうとして腕を勢いよく引っ張り、転びそうになって片腕を急に引き上げたり、お兄ちゃんお姉ちゃんが遊んでいて引っ張ったりしたときに脱臼は起こっています。

脱臼は癖になりやすいので、急に腕を引いたりしないようにしましょう。



## 8. ストープやヒーターは子どもが触れないようにガードをして使用しましょう。

冬は暖房器具によるやけどが多くなります。ヒーターの噴出し口に指をつけたり、転んでストープにぶれてしまったりします。子どもの皮膚は大変強く、ほんの少しの熱でも重症なやけどを負う危険があります。

熱源が直接触れないように、ガードをして使用しましょう。ストープの上にやかんは置かないようにしましょう。



## 9. 熱いお茶、味噌汁、カップラーメンなど子どもが熱い物に触れないようにしましょう。

台所は子どもにとって危険な場所のひとつです。ちょっと目を離したすきにガス台から下ろしたばかりのやかんや熱い鍋に熱ってしまったら、足元にいる子どもに熱いスープや油をかけてひどいやけどを負わせてしまったり、テーブルの上のカップラーメンをひっくり返してしまう事故があります。

熱い食べ物や飲み物はテーブルの中央に置きましょう。

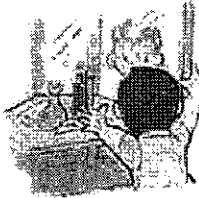
大人の目が離れることがあっても自由に台所には入れないように、柵をつけ、閉め忘れのないようにしておきましょう。

また、アイロンは使用時だけでなく、温度を冷ますときも手の届かないところに置いて冷ましましょう。



### 10. 医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かないところに置きましょう。

子どもは大人のまねをしたがり、大人が物を出し入れするバックが気になります。バックの中には小銭や化粧品、薬など誤飲事故につながる物がたくさん入っていますが、バックの中に入っているは大丈夫と思って、子どもの側に置いておいたため、バックの中からタバコを出して食べてしまったり、引き出しに入っている薬も取り出して誤飲してしまいます。



お母さんが使う化粧品はこのほか興味・関心があり、洗面台や化粧台の上に無造作において置かないようにしましょう。

医薬品、化粧品、洗剤などは子どもの手の届かないところに置きましょう。

手が届く引き出しや冷蔵庫は開けることができないようにロックをしておきましょう。

### 11. 子どもが鼻や耳に小物を入れて遊ぶことがないようにしましょう。

子どもはビーズやプラスチックの玉、小さなブロックやお菓子などを面白半分て鼻や耳に詰めて遊ぶことがあります。異物が詰まって取れなくなり、思わぬ事故になることもあるので注意が必要です。特に鼻から入ったものは長時間そのままにしておくとな中の粘膜に炎症を引き起こします。



鼻や耳に小物を入れて遊ぶことがないように注意しましょう。

### 12. ビーナッツや曲玉などは子どもの手の届かないところに置きましょう。

子どもは同気なく床やテーブルの上に置いてある小物をつまんで口に入れてしまいます。子どもの口の大きさは最大32mmなので、これより小さなものは飲み込めず、おもちやが口の中にすぼり入ってしまったら、食べ物飲み込めなくて喉につかえてしまったりします。



子どもの喉はまだ未発達なので、気管に物が入りやすく、ビーナッツや枝豆などの豆類を与えるのは危険です。豆類は赤ちゃんの気管をふさぐ大きさで、誤って気管に入っているのに気がつかないと肺の炎症を起こしてしまいます。

ビーナッツは3歳を過ぎるまでは与えないようにしましょう。

食べ物には硬さや大きさ、口の中に入れる量を考え食べさせましょう。

### 13. 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用しましょう。

子どもはなかなかじっと座っていません。チャイルドシートを嫌がって座らないと抱きかかえて乗せてしまいがちになりますが、スピードを出していないくても衝突による力は予想以上に大きく、子どもを死にさせたり、ひどく傷つけてしまいます。

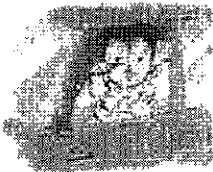


車に乗せる時は年齢にあったチャイルドシートを後部座席に取り付け使用しましょう。

購入時には耐久性や安全基準に合格したJISマークや運輸省の認定マークを目安に車種にあったものを選びましょう。

### 14. ドアを開閉するとき、子どもの手や足の位置を確認しましょう。

子どもの行動範囲が広がると、自動車のドア、エレベーター、車のパワーウィンドウなど、色々な所で手や足をはさむ事故が多くなります。ドアやサッシは人が出入りする度に触れるところであるので、ドアやパワーウィンドウを開閉するときは、手などはさまないように注意しましょう。



ドアを開閉するときは、子どもの手や足がどこにあるかを確認しましょう。

### 15. 入浴後、浴槽のお湯は抜いておきましょう。

入浴中、子どもを一人にして替替えを取りに行ったり、電話に出たり、お母さんがシャンプーをしている間でも、浴槽をよじ登って濡れたり、浴槽の外にいるからといって安心できません。



浴槽のふたは入浴する直前にはずし、入浴中の子どもからは目を離さないようにしましょう。

2歳のお誕生日までは、入浴後は浴槽のお湯はぬいておきましょう。

### 16. 一人で浴室に入れないようにドアにカギなどを付けておきましょう。

掃除をしようとして浴室のドアを開けておいたら、知らないうちに浴室に入り、浴槽をのぞきこんで溺れてしまう事故がおきています。

浴室のドアは開けっ放しにせず、子どもの手の届かない所に外カギをつけて、自由に出入りできないようにしておきましょう。

